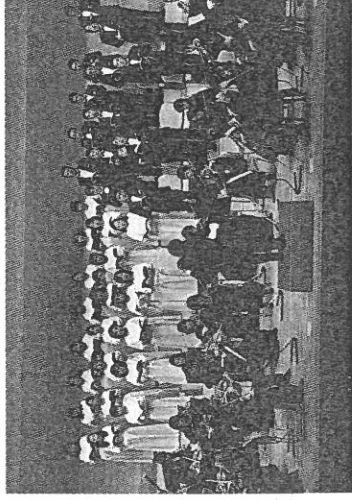


▼東京ニューシティー管弦楽団十東京合唱協会（©林薫代種）



◆東京ニューシティー管弦楽団第
一四回十東京合唱協会第一六回
定期演奏会

内藤彰指揮の両団体による今回の定期、プログラム前半はロッシニーの「セビリアの理髪師」序曲とモーツァルトの「ハフナー」交響曲。

序曲は調子が出て来ないのか、リズムが重く、ロッシニーらしい軽快さに欠ける。ただし、管楽器のソロは皆巧く、ニュアンスも豊か。内藤の誠実さ、きっちりとした音楽を造形してゆく努力は、次のモーツァルトでかなり成功していた。まず楽句がおしまいまでいねいに歌われ、響きもはつらつとして、祝典的な気分が出ており、弦楽器にあと一歩強さと豊かさが加われば申し分ないところまで来た。

プログラム後半はロッシニーの「スタバト・マーテル」。独唱と合唱をすべてコーラスで賄うのは、ソリストたちの集団の強みだろう。独唱は皆立派で、声も技術も水準が高い。内藤の指揮も、曲の生命力に忠実で、華麗さは欠けるが、統一感のある好演といえよう。合唱、オケ共々若々しいのが魅力。（9月23日、北とびあさくらホール）

（保延裕史）